

1 沖縄の学生にとっての日系人・外国人・アメリカン

琉球大学の学生にとって、外国人が身近にいるかどうかは、住んでいる地域によってだいぶ左右される。沖縄には、外国人が多い地域と、そうでない地域があるからである。それは、米軍基地の駐留と密接にかかわっている^{*1}。

米軍基地が集中する沖縄本島中部に住んでいると、アルバイト先の飲食店の客として、あるいは近所の公園で一緒にバスケットボールをする友だちとして、日常的に外国人に接することがある(写真1、2)。しかしそれは、沖縄全体では、けっして一般的とはいえない。

学生たちは、高校までの授業において、沖縄からの海外移民やアメリカンの問題に関して、ほとんど学んだことがないという。クラスに日系人や台湾人の友だちがいても、さまざまな背景や文化の違いについて、沖縄の子どもたちが気づいていない場合もある。

学生たちと私は、二〇〇三年に、沖縄県内に住んでいる日系人、外国人、アメリカンのインタビュー調査を行い、アメリカ人、台湾人、日系ペルー人、日系ブラジル人の人びと、あわせて四十五名からお話を聞くことができた^{*2}。数名の日系ペルー人とアメリカ人を除いて、みな日本語が話せる人たちで、沖縄に来て一年以上が経過していた。沖縄生まれの人もいた。自身



写真1 沖縄市のゲート通り



も日系ペルー人で、当時、大学院生だった国吉サオリさんが、調査を助けてくれた。

- (1) 2 定住化によって失われるアメリカ人の特権性
 (1) 沖縄における最大の外国人集団、アメリカ人

外国人の調査の対象にアメリカ人が含まれるのは、沖縄ならではのと思われ。日本全体では、アメリカ人は外国人の中で少数派だし、資格外就労や不学などの、いわゆる外国人問題の外側にいることが多いので、調査の対象になることはまれである。

写真2 沖縄市のフィリピン雑貨店



沖縄のアメリカ人は、まず、沖縄にいる外国人の中で圧倒的な多数派である。米軍人・軍属とその家族、約五万人というのは、沖縄県民の総人口である約百三十七万人に對置するとき、ほかの都道府県には例のない、巨大な外国人集団である(写真3、4、5)。さらに、アメリカ人は外国人登録者の中

でももっとも多く、全外国人登録者のほぼ四分の一を占めている。

沖縄のアメリカ人は、人数が多いだけでなく、米軍基地を背景にしている。ほかの外国人や日系人比べて、あるいは沖縄の住民に比べてさえ、特権的な生活を享受しているのではないだろうか。

(2) 基地の外で、特権性を持たずに暮らすアメリカ人ところが調べていくと、さまざまな特権があるのは、現役の、しかもアメリカ合衆国で本国採用された米兵・米軍属とその家族に限られることがわかった。彼らは、基地内の無償の医療や教育をうけ、日本の租税や裁判権などの多くは適用外である。

ところが転勤の辞令がくだって、そのとき沖縄女性と結婚しているなどの事情があつて、軍人をやめて沖縄に残るかとなると、現地雇用の軍属となるか、基地の外で英語教師などの仕事を見つけるかということになる。

こうして沖縄に定住化した元軍人・軍属とその家族は、特権の外に生きることになる。その中には、沖縄女性を母親に持つアメリカ人の人びとが含まれる。



写真3 沖縄市の2言語の表示

写真4 居酒屋のメニューも英語(沖縄市)





写真5 道路のすぐ横は米軍基地

(3) 沖縄で暮らすアメリカ人の若者たち

「お父さんが海兵隊を引退したのは、妹がちょうど高校一年になるときだったんですよ。兵隊はいつも、三年か五年で引越しいないといけないんですけど、自分も妹ももう高校にいつてるから、引越したくないと。かわいそうだけど、お父さん、ほんとは引退したくなかったはず。その後、軍属になって、でも現地雇用だから基地の病院は無料じゃない。でも、軍属だから、外国人登録はできないから、日本の保険には入れなくて、今、怪我してて、ほんとに病院にいきたいんだけど……。」(二十三歳男性、アメリカ国籍、アメリカン)

皮肉なことに、沖縄に定住化し、基地を背景とする特権を持たないアメリカ人やアメリカ人は、沖縄の人びとから、反基地感情に根ざした否定的なまなざしをうけることがある。

「自分が常連になってたディスコ、毎週行ってたのに、はいれない。なんで？ 自分、兵隊じゃないよ。……日本人の集まりにいつても、自分もやっぱりウチナンチュだよっていうあれを、最初の一時間くらいは必要。みんなに話しかけて、安心させて、それからみんなで楽しく過ごせる。……冷たくなるときもある。そうしても変な目でみられたらね、放っておく、頑張らない、安心させない。もう、あきらめる。」(二十三歳男性・アメリカ国籍・アメリカン)